

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人湖東会
事業所名	グループホームハートフル
訪問調査日	平成21年11月5日
評価確定日	平成21年11月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人湖東会
事業所名	グループホームハートフル
所在地	滋賀県犬上郡多賀町中川原605-2 (電話) 0749-48-2600

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9-4F		
訪問調査日	平成21年11月5日	評価確定日	11月12日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月13日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤5人, 非常勤 4人, 常勤換算7.1人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋建て造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低 81 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松木診療所・豊郷病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関先の草花や風景写真の掲示などで明るい印象を抱かせるホームである。リビングはそれぞれの利用者にとって過ごしやすいう、食卓の高さやソファの位置、壁の飾りつけなどに細やかな配慮がなされており、結果として家庭的な雰囲気が漂っている。ホーム職員は「その人らしさ」を尊重するケアを目指しており、業務改善意欲も高い。また、医療連携で週1回訪問看護が行われており、ターミナルケアも可能なホームであり、ターミナルケアについて職員の意識統一を図ってきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域の老人会への加入等、昨年度目指していた課題を着実に達成してきている。外部評価の結果を玄関先に備付けたり運営推進会議等の機会に周知することで外部評価をホーム運営に生かしていくべく取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の取り組みが年1回の業務見直しの機会として定着しており、自己評価結果や外部評価結果を改善につなげる姿勢が維持されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の議題は2カ月間のホームの活動報告や懸案事項等であり、メンバーに利用者やボランティアにも参加してもらうことで幅広い立場からホーム運営について意見を出してもらっている。実際、出された意見をきっかけに改善した事例も複数ある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃の面会時に家族が職員に何でも言える雰囲気づくりに努めてコミュニケーションをとっている他、玄関に意見箱と用紙を置きいつでも意見や要望を提出できるように整えている。なお、犬上ハートフルセンター全体で第三者委員が委嘱されており、年2回程センターを訪問する機会があるが、グループホームに立ち寄り利用者や家族の相談を受けるような機会の創出が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>犬上ハートフルセンターの敷地内にあるホームであるが、地域にホームだよりを配布する等の取り組みで認知度が向上している。地域の老人会への参加が達成でき、これまで以上に地域と関わる機会が増えたことが成果としてあげられる。また、ボランティアや家族の協力を得て利用者が地域に出る機会もある他、幼稚園児との交流や地域行事への参加もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく生きる姿を尊重し、思いの背景を汲み温かな心と専門性をもって支えます」というグループホーム独自の理念を作成し、明示している。職員も「その人らしさ」を尊重した支援を日々目指して取り組んでいる。	○	ホーム内に独自の理念が掲げられているが、さらに外部に向けて周知する取り組みが望まれる(広報誌に明示など)。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアワーカー会議などで利用者支援に関する事例を検討する際に「その人らしさ」を尊重する支援とは何か等、ホームの理念に立ち返る機会をもっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会への参加が達成でき、これまで以上に地域と関わる機会が増えたことが成果としてあげられる。また、ボランティアや家族の協力を得て利用者が地域に出る機会もある他、幼稚園児との交流や地域行事への参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の取り組みが年1回の業務見直しの機会として定着しており、自己評価結果や外部評価結果を改善につなげる姿勢が維持されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度で運営推進会議が開催されており、利用者やボランティアにも参加してもらうことで幅広い立場からホーム運営について意見を出してもらっている。実際、出された意見をきっかけに改善した事例も複数ある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議やキャラバンメイト、ホームだよりを手渡す際等、頻繁に直接会う機会があり、その都度情報交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事開催のタイミングなどに合わせ、家族会を年6回開催しており、ホームから情報伝達したり、意見交換する機会となっている。利用者に関する情報は電話連絡を密にとることも多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時に家族が職員に何でも言える雰囲気づくりに努めてコミュニケーションをとっている他、玄関に意見箱と用紙を置きいつでも意見や要望を提出できるように整えている。	○	犬上ハートフルセンターとして第三者委員が委嘱されており、年2回程センターを訪問する機会がある。さらにグループホームに委員が立ち寄り利用者や家族の相談を受けるような機会の創出が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は職員の退職はほとんど無かったが、退職する際にはホーム内で職員と利用者が集まり送別会を行うことで利用者の理解を促している。	○	職員の入・退職について、利用者や家族に紹介する仕組みを明確にすることが有効と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修や施設内研修に参加する機会を増やすことに取り組み、実際に多くの機会があった。法人としても職能に応じた研修体系を構築し、計画的な職員育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回の頻度で行われるグループホーム部会の勉強会等に積極的に参加しており、能力向上やネットワークづくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一敷地内で法人が運営するやショートステイ等を利用する機会にグループホームに来てもらい雰囲気を理解してもらう等、入居前にホームについて知ってもらう機会を持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の際に料理の味付け方法について職員が利用者から教えてもらったり、漬物のつけ方や味噌作り等、利用者の知識を参考にすることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族から入手した情報とともに、日々の声掛けや様子の確認により、意向の把握に努めている。職員間では情報を共有しながら支援できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で利用者の情報を共有するために、毎月のケアワーカー会議には、夜勤専門職員や、関わるすべての職員が参加できるよう日程調整を行っている。計画策定の際には事前に家族に電話で連絡を取り、意向に沿った計画策定に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に関しては毎月のモニタリング時に確認しており、急な変化のあった場合には随時現状に即した計画変更を行っている。家族にも電話による確認を行い、後日同意のサインを得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している事業所に利用者の昔馴染みの方たちが来た時には、先方の職員から一報が入ったり、こちらから出向くなど双方の職員同士で連携を取って交流ができるよう柔軟な体制が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、主治医の確認を行っており、利用者の要望により、それまでのかかりつけ医の継続が多い。受診に際しては家族の付き添いを原則としており、必要な場合には同行している。また、3名の利用者は月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化やターミナルケアに対して、書類の整備がなされ、同意書も整っている。医療連携体制を結んだ事で主治医との連携も円滑になるとともに、話し合う機会を持つこともできるなど体制整備が整いつつある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時には「個人情報の利用目的」や「個人情報の使用に係る同意書」にサインを受け、秘密保持の徹底に努めている。また、言葉掛けや話し言葉には利用者を尊重した対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の過ごし方は、基本的なものになっており、その中でいかにその人の生活に即した日常が送れるかを職員間で検討し、生活歴や性格などを通して模索している。利用者一人ひとりの状況をつかみ、会話やコミュニケーションによりさらなる要望の把握に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望に即した食事の提供ができるよう、食べたいものや希望を聴き取り献立に反映している。また、イベントや行事ごとにメニューに変化を付け、外食や店屋物などバリエーションに富んだ食事の提供に取り組んでいる。食事の準備や片付けには、状況に応じて参加しており、和やかな雰囲気での食事風景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週6日間実施しており、体調に変化がない限り希望に即した対応をとっている。入浴順は利用者も含めて決められ、毎日午後から順次実施し、柚子湯や菖蒲湯のほか入浴剤で温泉気分を味わうなど楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時に聴き取っている生活歴を参考に日常生活をいかに楽しんで過ごせるかを考え取り組んでいる。敷地内での畑仕事や趣味のほか、元職員が始めたカラオケなどにも出かけ、皆で楽しむ機会を設けている。また、天候の良い日には近所に散歩に出かけるなど臨機応変な対応がなされている。	○	利用者の高齢化や虚弱化は今後確実に進んでくることであり、今まで出来ていた事が出来なくなることは必然的に起こるであろう。それに向け、利用者の喜びや楽しみを見いだし、いかに活気ある日々を過ごせるか今後の工夫に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の日課にのなかに散歩を組み入れ、天候や利用者の体調により実施している。また、ボランティアの協力により友人に会いに出かけるなど、外出の機会も多い。毎年実施される家族も含めた日帰り旅行もある。今年は残念ながら地域の行事など多くの人たちが集まる所への参加が自粛された。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態により対応しており、徘徊に対しては職員の状況によりやむ終えない場合には家族の了解の上施錠することもあるが現在の所行っていない。職員全員が施錠のリスクを認識しており、鍵を掛けないケアの実践に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の避難訓練とともに、自動火災通報装置などを整備している。また、近隣住民参加の避難訓練も実施する予定で協力体制強化に取り組もうとしている。	○	大地震が起きた際の食器棚のガラス飛沫や食器の飛び出しに対して、危機意識を持ち安全対策が求められる。さらに風水害などの自然災害や夜間時の避難誘導に対して、今一度利用者の安全確保の確認が必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に即した水分補給をしており、日々の日誌により確認している。飲み物を抵抗なく確保できるよう、好みのものを用意しており、入浴後の水分補給では多種類のジュースを提供して喜ばれている。また、嚥下に心配な利用者にはとろみを付けて対応している。	○	日々の食事の中で、一人ひとりの摂取量や栄養バランスに留意し、どうしても炭水化物の摂取が多くなる高齢者の食生活に対して、的確な支援ができるよう、さらなる取り組みが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中過ごす事が多いリビングは、大きな窓から日差しが差し込み、椅子やソファなどで思い思いに寛ぎ、穏やかな時間の流れを醸し出している。夏場には朝顔やひょうたん、糸瓜などを栽培し、玄関先には季節ごとの花を植えるなど季節感溢れる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、それまで使用していた家具など、馴染みの物を持ってきてもらい、利用者が戸惑う事がないよう自然にここでの生活に溶け込めるよう支援している。また、夏場の暑さにも配慮し、日差しが強い居室には「よしず」を用意して対応している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 湖東会 いぬかみハートフルセンター
(ユニット名)	グループホーム ハートフル
所在地 (県・市町村名)	滋賀県犬上郡多賀町中川原605-2
記入者名 (管理者)	浅居 絹代
記入日	平成 21 年 10 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「その人らしく生きる姿を尊重し、思いの背景を汲み温かな心と専門性をもって・・・」との理念を明示し、家族会、ボランティア、運営推進委員会等に広報している。		
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日の申し送りの中で理念に沿って支援できているかどうかを確認し、理念が定着していくように図っている。		
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族会にて理念の取り組みや、多賀町の区長経由で地域の個別にグループホームだよりを配布している。日々の生活の様子がたよりをみて理解していただけるように内容を考慮している。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	地域のどこへ出向いていっても、気軽に寄っていただけるように声掛をしている。その甲斐もあって利用者のお友達が遊びに来ていただけるようになった。面会者の送迎も申し出ている。		施設の立地が近所との交流できる条件になっていないので、多賀町の地域のサロンには何処へでも参加させていただけようように声掛して、交流を持っている。また、夏祭りへの招待や参加、運動会、地域行事への参加を積極的にしている。
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	夏祭りを開催し、家族や地域の日赤ボランティアと協力してたくさんの地域との交流が出来た。また、幼稚園児との春祭り、慰問、近隣の夏祭りへの参加等積極的に交流が出来た。地域の地蔵盆には地域に帰り共に食事し交流を深める事ができた。		地域の老人会への参加を達成できた。参加費(会費)を1年分納め、定期的な行事には参加していただいている。地域のボランティアや家族の送迎にて可能になった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	常に利用者の暮らしぶりや、生活状況を地域の皆様にお知らせして努力している姿を知っていただき、在宅で暮らしている同じ高齢者の方にも励みとなるように広報活動している。		敷地内のグランドゴルフ場を地域の高齢者、老人会に使用してもらい、理事長杯グランドゴルフ大会を開催している。来ていただく事により、ハートフルセンターに足を踏み入れていただく機会を持っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己及び外部評価の意義を理解している。毎年の自己評価の課題を検討しつつ、個別ケアの改善や実践につながる様、努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は定期的開催している。現場の状況や雰囲気を見ていただけるように、グループホーム内で利用者やボランティアも一緒に参加してもらい内容を聞いていただいている。普段の悩みや現状を率直に話し、色々な意見を頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームだよりを配布するにあたり、市町村に出向き行き来する機会を設けている。また、入退所者の報告や事故報告の連絡をし状況をお知らせしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を受けておられる方が2名おられる。その都度、制度の活用や関わりを求め、関係者に来ていただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは直接の暴力による虐待だけではなく、言葉の虐待や介護放棄等様々な虐待がある事を研修で学んでもらったり、パンフレット、会議等触れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はゆっくりとした時間をかけて説明を行ったり、また考える時間やゆとりをもっている。また、解約する時は、十分な日数をもち、家族が十分納得された時点で退所の手続きをとっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は1年に数回開催し、グループホーム全体の暮らしぶりをお知らせしている。また、請求書とは別にグループホームだよりや運営推進会議で話し合った内容などは記録など送付している。普段は電話での連絡を密にしている。	日々の健康状態は変化が観られた時は電話でお知らせするようにしている。状況によっては受診していただいたり、詳細を密に連絡している。その記録も日誌に記録している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも言える雰囲気を持てる環境をつくるように職員に指導している。また玄関や施設の中に意見箱を設置、投書しやすいような場所、環境を整えている。マニュアルも整備し、意見箱の開封、企画会議にて職員全体で共有している。	第三者委員会の設置のお知らせや意見箱の設置のお知らせをしている。また第三者委員の方にも役割を説明している。また12月の家族会にて利用者家族が苑長に話せる場を作っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回CW会議を開催し、疑問点、提案、意見等を発表する機会を設けている。管理者として、運営者に気兼ねなく言える環境がある。	月1回CW会議に意見を言ってもらえる様、普段から意見を出しやすいようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間帯も利用者の状況に合わせて変更をし、対応している。利用者を主体に考え、調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う移動はあるが、その他の移動は極力避けている。馴染み関係を継続していけるよう運営者に進言している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた育成に取り組んでいる。職能を法人で作成し、統一した育成や個人の能力に応じた指導をしている。また、研修会には機会がある時には参加を促したり、資格取得のための情報・シフトの調整を行っている。	施設で行われる研修にはすべて参加してもらっている。また、勤務体制が保てる限り施設外研修にも参加してもらっている。また、研修に参加した職員は、会議には復命して研修内容を全員で把握出来るようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦根・犬上のグループホーム部会では、年間に渡って管理者及び職員の交換研修が行われ、質の向上を図るよう取り組みをしている。研修にも積極的に参加し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会を計画したり、旅行に行くなどのときは連休を取得できるよう協力体制を取っている。	グループホーム部会で職員のストレスの研修に参加した。また、参加できなかった職員には復命している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の長所をCW会議などで取り上げ、各自がその長所を生かして利用者の支援をしていけるように話す。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はもとより、御家族にも協力していただき詳細に渡って聞き取りやセンター方式の記入をして頂き、その人らしく生活が出来よう努めている。	入所が近づいた利用者にはショートステイの利用が可能になったときには出来る限り利用していただいている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所までに何回か見学、訪問をして頂きケアマネからも情報を得ている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望を聞き、出来る限り対応している。併設施設のサービスも利用しながら支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに家族との面談や、利用者の現在の状況、思いを聞き取り出来る限りギャップがないようにしている。利用する前に短期利用を計画したりしている。		入所するまでにショートステイの利用が出来る期間や施設内のサービス利用時お互いに訪問し、顔馴染みの関係を作ったりグループホームの利用者にも紹介している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	他施設から比べると、職員は家族と同様な態度で接している。昔から味噌作りやらつきよ漬けなど昔の知恵を教わっている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生会には御家族の出席を依頼したり、家族会を通じて居室の掃除を親子でしていただいたりその後では、食事をしたりしている。		家族会から年間の計画を立ててもらい、職員だけでは出来ない事を家族会でお手伝いしていただき、グループホーム・家族・職員が一带となって支えあう仕組みをとっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が会いたがっている御家族には会える様に一緒に訪問している。外出や行事、電話で話して連絡が取れるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加していただいたり、地域の方が面会に来ていただけるように支援している。		地域のボランティアさんと協力して、老人会参加や家族に協力していただき馴染みの通っていた場所にいけるように努力していただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新しく入ってこられた利用者の気持ちを折に触れ話したり、食堂の席を考えたりしている。食後の後かたづけの出来ない人の食器洗いや現状に触れ、いたわり合いの気持ちを持つように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に行かれた方には1年に1回は面会に利用者と訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を出来るだけ入所時に家族に記入していただき、情報を基に支援方法を日々検討している。毎日細部にわたって記録をいれ、情報を共有し、支援を統一している。		研修に参加する機会を少しでも多くし、専門職としてグループホームの職員が利用者の「その人らしい」とは何かを学んでもらえたと思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記入やその後の情報を記録している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活面や心理面を日誌等で職員全員で共有、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報の共有と毎月行われているCW会議で話し合っている。色々な意見を基により良い支援を出来るように心掛けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、認定期間の更新時はもとより随時変化があったとき、定期的なケアワーカー会議にも検討している。また、見直しが必要な時には家族に報告し、確認していただいている。		介護計画の変更が生じた場合は、直ぐに見直しを行い、変更している。家族には電話で連絡し、理解をして頂いた上で作成している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の気づきや生活記録は詳細に渡り記録している。記録に基づき日々のケアを実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の方がデイサービスやショートステイの利用に来られた時には職員と一緒に出向いて面会したり、グループホームまで来ていただいたりして交流を保っている。		おつとめやボランティアが来られた時は、施設内で一緒に参加が出来るように情報を受けている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんや各機関にはグループホームの生活を理解していただくために広報をお届けしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内のサロンへ参加させていただいている。サロンは在宅におられる介護予防の方の対象となっており、交流をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向を確認しつつ、地域の社協や地域包括職員と連絡をとり権利擁護の利用について話を進めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所時の主治医がかかりつけ医であり、定期的な受診は家族同行での診療を受けている。また、2名の利用者は月に1回往診していただいている。		入所前のかかりつけ医に受診していただいている。また、受診の際は普段の記録や様子を詳細に記録し、伝達している。必要があれば受診時に付き添う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診時に症状を詳しく報告し相談したり、認知症外来への受診や情報を提供している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師が毎週(金曜日)に訪問して、問診、バイタル等の測定を行い、CWの医療相談、質問などにも助言を頂いている。		緊急時にはデイサービスNSと連携して、早期に対応処置できるようにしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の疾病が重度に至らないうちに受診し、早期に回復できるように努めている。又、入院にいたった場合は介護サマリーを届けるなどして情報交換している。また、医療相談員との相談など頻繁に連絡をとり、状態把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応、終末期ケア対応指針、身取り介護についての同意書を書面にて整備し、家族会にて説明、新入居者に対しては重要事項説明と同時に説明されている。		医療連携体制をむすんでからは、主治医との連携が円滑になった。終末ケアについて主治医と話し合う機会を持つ約束を交わした。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の所利用者の心身の状態は安定しており、看取りをする状態になっていないが指針にあげている内容には折りに触れ話している。	○	重度化や終末期に向けてスタッフのレベルアップや研修等参加している。また、職員の移動も含めて対応できるベテランのスタッフも配置を考えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから特養へ移動された利用者が居られたが、同じ併設施設への移行で家人・本人の希望でもありダメージは少ない。また、情報は常に行い、頻繁に面会に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して言葉かけや会話には優しく、丁寧な言葉かけをする様に心掛けている。個人情報の漏洩防止にも都度指導している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴や食事の嗜好などを、選択してもらい出来る限りの希望を取り入れている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでは基本的な時間の流れは持っているが、利用者の思いや気分を大事に尊重している。買い物の希望や行きたい所を言えるような会話をしたり、晩酌を希望されらしていただいている。	在宅での生活歴や性格、趣味等その人が暮らしやすい生活とは？を考え、一人ひとりにあった生活を考えている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物に行き、好きな服やアクセサリーを選んでいただいている。また、地域と馴染みのある美容院へ行ったり、来て頂いたりしている。	旅行や、食事会にはおしゃれを意識したり、手作りのコースージュを身につけていただき普段と違う「特別な日」を意識していただけるようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嗜好を大事にし、代替食を用意したりイベント・行事・お誕生会にはバラエティーに富んだメニューを利用者に聞きながら立てている。場面場面で得意な事を分けていただいている。また、食後は各自順番に食器を洗っておられる。	月に1～2回くらいは外食や出前を取り、喜んでいただいている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌されている方には継続して晩酌を楽しんでいただき、買い物と一緒に買って好きなおやつをおかずかいで購入していただいている。	お買い物と一緒に出かけられるよう声掛しているが買い物に行きたくない人には購入してきて欲しいお菓子など聞いて買って来ている。個人で管理してもらい、好きな時に食べておられる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の訴えのない方には、排泄の記録を記入し、家人・主治医との連携を取っている。また、薬に頼らないでスムーズな排泄が出来るように食事から取り入れて便秘にならないように心掛けている。		排泄の訴えが少なくなってきた利用者に対して、介護計画で組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を実施し、入りたくない日は希望通りしてもらっている。		入浴剤を使用し、温泉気分や香りが良い入浴剤を使用しラックスが出来るように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は高齢のこともあり、軽くお昼寝タイムを作っている。横になりたいときには、何時でも居室で休んで頂いている。		個別にテレビを持って来ていただいたり、居室にてお茶を飲んだり思い出のある写真を貼ったりして自分の部屋を意識できるように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の生活歴を参考にしながら、日々生活の中に取り入れている。畑仕事や草取り、調理、時にはカラオケに行ったりして楽しんでいる。今までの趣味や特技が加齢や認知症の出現で出来なくなっている。		坊守をされている方がおられるので、お経を読んだり導師を取ってもらっている。お経をあげると落ち着かれる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必ず買い物には声掛け、出来る限り外出の機会を設けている。その際には、おこずかいを持ってもらい、好きなおやつや食材を購入していただけるように支援している。		管理が出来る方にはお小遣を持っていただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意思により自由に出かけられるように支援している。毎日の日課には散歩やお友達に会いに行き行って来るなどして出かけておられる。また、ほぼ毎月行事を作って外食、花見、地域行事への参加、日帰り家族旅行等でかけている。		季節にもよるが、東屋まで散歩したり、お茶を持っていきハイキングのようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会で家族と共に日帰り旅行を行った。利用者の状況により日帰り、宿泊かを考慮している。行き先は家族会で話し合って決定している。		お墓参りを希望されたり、一時帰宅を希望される方には、家族と相談して希望に添えるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム内にある公衆電話で自由にお小遣いから電話されている。電話代の両替や施設の電話も時には使用してもらっている。年末には年賀状を家族宛に書いてもらって送っている。		遠くにいるお孫さんに電話したり、普段の生活が分かるように写真を手紙と同封して支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親しい人が来られたら、居室でゆっくり過せるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の範囲や行為をCW会議などで話しをしている。また、記録や家族への報告は随時している。		どうしても身体拘束につながるような行為をする場合は、記録に残るように指導している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が鍵を掛ける事の弊害を理解している。夜間以外は戸締りをしないよう開錠している。万が一徘徊の状態になったときや、他の利用者へのリスクが高い時は家人了解の元、施錠させていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は介護者が常に一人ひとりの居場所を確認するよう折に触れ、意識付けが出来るよう指導している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室に置く物は様々で、必要であれば無くす方向で考えるのではなく、置く方法を考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、避難訓練を行っている。普段から危機管理を利用者、職員が感じられるように取り組んでいる。施設全体で、研修に参加したり、個人的に救急救命の研修を受けている。		ヒヤリハットや事故のリスクがあると感じた時はモニタリングやプランの変更をして随時対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個人的に町の研修に参加したり、施設内で研修を行ったりしている。緊急時の対応は初動動作が的確に行えるよう訓練や伝達している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常口の場所、自動火災報知設備、自動火災通報装置が完備できている。施設全体での訓練にも参加している。毎月の避難訓練を実施している。		近隣の住民参加の避難訓練を実行する予定であったが、予定変更になり延期となった。近隣住民家族にはその旨伝達し、協力を依頼してお願いしていた。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	考えられるリスクは御家族に説明している。又、リスクを考慮した支援策を家族と話し合い、協力体制を取っている。		リスクを出来るだけ回避できるよう、介護計画に入れている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をしている。記録し情報の共有を図っている。また、少しの変化も家族に報告し、予測される事を話している。		医療連携に連絡し、情報を共有したり指導してもらい発見が遅れないようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日勤者夜勤者それぞれがその日の申し送りや記録を見て状態を把握している。また、一人ひとりの薬剤情報を必要時に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分量が1000ml以上は摂取出来る様に努めている。また、水分以外にも食事に無理なく自然に摂取しながら、程度の運動も個人個人に支援している。		食事内容に野菜をより多く取り入れられるよう献立を考えている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入歯の方は週に2回、ポリドントにて消毒している。食後は口腔ケアを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に入れて職員全体で把握出来るようにしている。また、支援が必要な利用者には好んで飲んでいただける飲み物(ポカリスエット等)を常時飲んでいただいている。		入浴後に冷たいジュースを好まれるので、ジュースを飲んでいただいている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルや研修を受けており、基本的な知識は得ている。特に手洗いや冬には面会時に風邪の方は控えていただいたり、マスクの着用をいただいている。		玄関や職員通路には消毒液を設置し、買い物や人ごみの多い所は出来るだけ行かないようにしている。また、外出時はマスクを装着している。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	こまめに買い物をする様に心掛けている。又、生協にも加入して食材を豊富にし、新鮮なうちに使い切るように心掛けている。		地域の方や御家族に野菜など頂く機会がある。そのときには献立を変更するなど頂いた物を使用するよう柔軟にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームだけの玄関から出入りしていただけるようにお知らせしている。花や窓から自然に入るよう青葉を楽しんでいただいている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から朝顔のつたや花が見られ、喜んでいただいている。入浴には季節感が出る入浴剤をいれたり、季節の花を飾ったり、アロマを取り入れ、精神的にもリラックスしていただけるように工夫している。		食堂からひょうたんやへちまの栽培をして緑を自然に取り入れている。また、夏場の涼感を誘っている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間や全体にこだわらずいつでも好きな時間をもてるよう支援している。又、利用者同時お互いの居室に訪問して、話している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が生活習慣に合わせてベッドの持込や馴染みのある家具、お仏壇等も持って来ていただいている。入所前に説明し、食器、箸、湯のみにいたる細かい物まで持って来ていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や食堂、外壁に温湿度計をかけ、外気温との差が大きにならないように調節している。出来る限り自然の空気が入ってくるように窓を開けたりして、換気している。		冬季には乾燥予防と適度な湿度を確保する為、加湿器を設置している。常に温湿度計をみている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みのある家具やダンス、ベッドを入所時に持ち込んでいただけるように御家族に声掛けしている。		個別で個人が洗濯出来るよう工夫している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが解かるように看板を立てたり、表札を掛け自分の居室が一目でわかるようにしている。		洗濯籠を個別に用意し、自分の洗濯物を自分で干したり、たたんだり出来るようにした。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の窓に腰掛けられるように椅子を置いたりしている。花に水やりをしながら休憩できるようにしている。夏はバーベキューをしている。		気候の良い日などは、外でお茶したりできるテーブルや椅子をセットし、自由にいただけるように工夫している。夏場には、窓からグリーンを楽しめるように、オーシャンブルーを植えたり、ゴーヤを植えて室温の調整を行っている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者個人個人が生き生きと暮らせるように支援していくには・・・を常に考えて行動している。職員も高齢化してきてはいるものの、利用者と年齢が近いこともあってか分かり合えることが多々ある。とにかくグループホーム自体が明るく、毎日が賑やかに暮らせている点が他のグループホームに見られない事業所だと思っております。